

千葉陸協だより

発行; 千葉陸上競技協会総務委員会広報部

2018年12月15日発行

第13号

2018 年度前半戦を振り返って

副会長 高津 乙郎

「災害は忘れたころにやってくる」と戒めの言葉として言い古されていますが、今年の夏は特に「忘れる暇もなくやってくる」ようでした。広島、岡山、愛媛を中心とした西日本での豪雨、そして、10月7日の北海道の胆振地方の震度7の大地震と立て続けに災害が起きました。被害にあわれた方々にはお見舞い申し上げ、また早い復興を祈念いたします。ここ千葉でも観測史上初の6月末の梅雨明けに始まり、連日の猛暑日、真夏日と想像以上の猛暑が続き競技への影響も少なからずあったものと思います。



さて、千葉陸上競技協会は宇野裕会長、木内俊秀専務理事の体制で2年目を迎えました。 役員、理事はじめ関係者の皆様には、日頃より本協会の活動に対し絶大なるご理解、ご協力いただいております こと感謝申し上げます。おかげさまで2018年度の前半、順調に進んでまいりました。

4月、審判講習会はこれまでスポーツセンター体育館で実施してきましたが、参加者の皆さんから「寒い、暗い、聞きづらい」と悪評(?)で、場所、形態等検討を重ねてきました。今年度は、千葉大学の小宮山教育学部長のご協力もあり、「暖かい、明るい、聞きやすい」千葉大学教育学部の講堂を会場として開催することができました。競技運営面では4月の記録会から始まり、千葉県選手権等、役員・審判の皆さんのご支援、ご協力のもと、円滑に運営できましたこと、大変感謝申し上げます。

今年度は、地域大会として8月に「第46回関東中学校陸上競技大会」を、千葉県小中学校体育連盟とともに主管を務めました。台風の影響を考慮し2日間の競技日程を変更し、1日開催となりました。本県選手は、その悪条件の下で、男女総合優勝、女子総合優勝、男子総合2位と陸上王国の力を遺憾なく発揮しました。これが、8月に岡山県で行われた全日本中学校陸上競技選手権に引き継がれ、3名の全国チャンピオンが誕生しました。選手の皆さんの努力は勿論ですが、指導に当たりました小中体連陸上競技専門部役員、各校の顧問の先生方に敬意を表します。

また、8月、三重県で開催された全国高等学校陸上競技対抗選手権大会では本県選手が大活躍し、2名の高校チャンピオンが生まれ、女子総合では市立船橋高校が3位入賞、都道府県対抗では男子が優勝の栄冠に輝きました。高校生の若い力は福井県で開催された第73回国民体育大会でも大きな花を咲かせました。本県の6名の優勝者のうち5名が高校生、男女総合2位の好成績の原動力となりました。

本年度も、これからシーズン後半に入り、競技もトラックからロードに移り、マラソン、駅伝の競技が中心になります。昨年度は、全国中学校駅伝大会に白山中学校が男子総合優勝、女子6位という成績を収めました。そして、都道府県駅伝男子は3位入賞という栄えある活躍をされました。今年度も、全国中学校駅伝、全国高校駅伝、そして都道府県対抗駅伝での活躍を期待しております。おわりに、関係者の皆様には今後とも引き続き、本協会へのご理解、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

陸上部紹介

「船橋市立葛飾中学校」

船橋市立葛飾中学校は昨年創立 70 周年を迎え、千葉県NO1の生徒数を誇る 1,185 名のマンモス校です。陸上競技部は 3 年男子 13 名、 2 年男子 13 名、 1 年男子 12 名、 3 年女子 11 名、 2 年女子 11 名、 1 年女子 15 名、合計 75 名が在籍をしています。練習は、朝練習と平日は 4 日間学校で、休みは土曜日に船橋運動公園・浦安市陸上競技場・幕張海岸などを使用して練習しています。

「情熱伝承」を合言葉に陸上競技に真摯に取り組み、陸上競技を通して人間力を磨き、陸上競技を大いに楽しみ、陸上競技を通して学んだ事を後輩へ伝えていけるように情熱をもって日々練習に励んでいます。陸上競技部のモットーは「笑顔で可愛く格好良く走る」でどんなときも笑顔を絶やさずに大会に臨み、陸上競技を楽しんでいます。

2017年には、県通信大会で女子リレー優勝、女子 1500 m優勝を果たし、関東・全国大会へ出場し、 関東で女子リレー優勝、女子 1500 m優勝、全国大会で女子リレー 3 位、1500 m 3 位に輝きました。今

年度は千葉県中学校総合体育大会女子総合 2 連覇を果たし、関東大会で1年女子100 m 5 位、女子1500 m優勝、全国大会でも1500 m 2 位と活躍できました。

我が部からジュニアオリンピック女子リレー千葉県選抜チームに森澤優佳(1年)が1走で出場し、日本中学新記録で優勝を果たし、南日向(3年)が東日本女子駅伝・都道府県女子駅伝の千葉県チームに選ばれ千葉県へも貢献できる選手が育っています。これからも陸上競技を楽しみ、多くの人から応援してもらえるチームにしていきたいと思います。



「八千代松陰高等学校」

1978年に、創立者 故山口 久太先生が、理想の教育を目指して八千代松陰高等学校を創立しました。山口先生は、生徒一人ひとりの「持ち味を生かす教育」を掲げるとともに、マナーを重んじ、両親・恩師・社会に「感謝する心」を生徒に説き続け、現在も、その教育方針のもと、すべての教職員で生徒の育成にあたっています。

陸上競技部は、創立と同時に設立されました。クラブ活動だけでなく、授業・ホームルーム活動も大切にしています。また、毎週木曜日は、全部員(付属中学生と高校生)で全体ミーティングを行い、中高の隔たりなく部員としての自覚を持たせる活動を取り入れています。

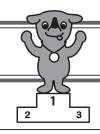
このような中で、インターハイでは走り高跳びで3年連続優勝、1600 mリレー優勝、国民体育大会5000 m優勝など、数々の輝かしい記録を残しました。また在学中に国際大会へ出場するなど、生徒・指導者ともに日々、練習に励んでいます。

2011年には、校内に6レーンのオールウェザーの陸上競技場や1kmのクロスカントリーコースも整備され、練習環境も充実しました。

今後も、山口先生の教育方針のもと、クラブ活動を通じ社会に貢献できる生徒の育成、そして、地域の皆さまに応援していただけるチームを目指し、さらに飛躍したいと思います。



国際大会入賞者。国内大会優勝者。駅伝大会



全国高等学校陸上競技対校選手権 (H30.8.2-6 三重)

男 子 走幅跳 海鋒泰輝 7m67 ① 西武台千葉高 女 子 100mH 小林歩未 13.34 ① 市立船橋高

全日本中学校陸上競技選手権 (H30.8.19-21 岡山)

女 子 100m渡辺千奈津12.13① 幕張本郷中女 子 200mハッサンナワール24.54① 松戸第五中

女 子 走幅跳 白土莉紅 5m72 ① 八日市場第二中

日本学生選手権(H30.9.6-9 等々力)

男 子 800m 梅谷健太 1.54.10 ① 順天堂大 男 子 400mH 山本竜大 50.33 ① 日大

女 子 10000m 加世田梨花 33,29,20 ① 名城大

国民体育大会(H30.10.5-9 福井)

少年 A 100m 瀬尾英明 10.68 ① 西武台千葉高 少年 A た幅跳 海鋒泰輝 7m71 ① 西武台千葉高 少年 A ハンマー投 丸山裕己 64m38 ① 木更津総合高 成年男子 走高跳 戸邉直人 2m25 ① つくばツインピークス 少年女子 B 100mH 岩佐茉結子 13.71 ① 成田高 少年女子 A 100mH 小林歩未 13.13 ① 市立船橋高

【栄章贈与者の紹介】

平成 29 年度 日本陸上競技連盟 栄章贈与者

秩父宮章寺内実元千葉陸上競技協会理事高校優秀指導者章稲葉剛千葉黎明高等学校教諭

高校優秀選手章 村上 夏美 成田高等学校

中学優秀選手章 岩佐茉結子 白井市立七次台中学校 安藤百福記念章 渡辺 基博 千葉市陸上競技協会

千葉県体育協会功労章贈与者

舟橋 昭太 千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部

関東陸上競技協会感謝状贈与者

上原 義信 千葉陸上競技協会競技運営委員会委員

奥田 義彦 千葉陸上競技協会理事 大沼 富夫 市川市陸上競技協会

千葉陸上競技協会 栄章贈与者

平成30年度功労章

伊藤 信夫 千葉陸上競技協会競技運営委員長

伊藤 勝雄 元千葉陸上競技協会評議員

塩谷常三郎 千葉陸上競技協会理事

平成 29 年度勲功章

森 智香子 積水化学

山口 智弘 東海大付属浦安高等学校

おしちせ

村瀬大輔 / 天岳直樹 / 加地勇樹 / 秀島 来

東海大付属浦安高等学校

藤原 寛人 東海大付属浦安高校中等部

ハッサン ナワール 松戸市立第五中学校

白土 茶実 八日市場市立第二中学校

南 日向 船橋市立葛飾中学校

野島健太 / 野島悠太 / 山本 樹 / 齋藤英介

加藤優門/親里海輝 我孫子市立白山中学校

平成 29 年度千葉県最高記録章

松崎 璃子 積水化学 女子 3000m 8.49.61 多田 一葉 流通経済大学 女子ハンマー投 54.83

平成 29 年度千葉県高校記録章

森戸 信陽 市立船橋高等学校 男子 110mH 13.91 畦地 将史 東葛飾高等学校

男子やり投 69m33

平成 29 年度千葉県中学記録章

ハッサン ナワール 松戸市立第五中学校

女子 200m 24.59

岩佐茉結子 白井市立七次台中学校

女子 100mH 13.62



千葉のアスリート紹介



第 12 回 小林 歩未 さん

千葉県 PR マスコットキャラクター チーバくん 千葉県許諾第 A287-7 号

「日本一の景色」

こんにちは、市立船橋高校の小林歩未です。私はこの度、「2018 彩る感動 東海総体」に出場し 100 mH で優勝することができました。

2度目のインターハイとなった今年のレースでは、予選から準決勝までトップを保つことができ、とても良かったと思います。決勝前はプレッシャーと不安と緊張が混ざっていて、とりあえず1位でゴールすることしか考えていませんでした。スタートから前半は良い流れで走ることができ、得意の3台目から後半にかけてはいつも通りスムーズにスピードを上げることが出来ました。タイムを見た時は、うれしさよりも驚きの方が大きかったです。日本高校新記録は目標にしていましたが、向かい風の中この記録が出ると思っていなかったのでとても自信がつきました。また、自分の課題も新しく見つけることが出来たので

次に繋がる良い経験となりました。

昨年のインターハイでは6位入賞で終わってしまい、とても悔しい思いをしました。今年のこの結果にたどり着くまでの道のりは決して楽ではなく、陸上競技を嫌いになり競技をやめたくなることもありました。それでも、ここまで来ることが出来たのは、3年間一緒に頑張ってきた友達や後輩などの支え、顧問の先生のご指導があったからこそです。本当に感謝しています。

2020年には東京でオリンピックも開催され、 最近はスポーツも盛んになってきています。自 分もこの流れに乗り、少しでも活躍出来るよう、 努力を続けていきたいと思います。



プロフィール

小林 歩未 習志野六中 → 市立船橋高 インターハイ 優勝 100 m H 13 秒 34 高校新 国民体育大会 優勝 100 m H 13 秒 13 W

発行 一般財団法人 千葉陸上競技協会

〒 263-0011 千葉市稲毛区天台町 323 千葉県総合スポーツセンター内

TEL: 043-252-7311 FAX: 043-252-7314

http://www.jaaf-chiba.jp/